「私たちの自然を守ろう」コン 応募2582点 受賞者決まる

来月から県内各地で展示

自然とふれあう楽しさ、共存する大切さを考える第32回「私たちの自然を守ろう」コンクール（県生態系保護協会、朝日新聞さいたま総局主催）の受賞者が決まった。絵画・ポスター・作文の各部門に2582点の応募があった。受賞作品数が最も多い学校に贈られる「学校賞」は浦和実業学園中学校に決まった。

全受賞作品175点と受賞者名は協会のホームページに後日掲載されるほか、以下の場所でも上位入賞作品などが展示される予定。

▽彩の国さいたま芸術劇場アートギャラリーコーナー（さいたま市浦和区、11月7日～21日）▽DOMショッピングセンター1階（同市大宮区、11月22日～28日）▽県自然学習センター（北本市、12月3日～16日午後）▽さいたまスーパーアリーナ南側けやきひろば1階プラザ2（さいたま市中央区、12月26日～来年2月28日）▽県庁3階連絡通路（同市浦和区、来年3月1日～21日）▽ニューシャトルと国際興業バスの車内（不定期）

絵画・知事賞（小学1～3年）

所沢市立南小3年　石田有珠京さん

絵画・知事賞（小学4～6年）

川越市立山田小6年　根津歩佳さん

ポスター・知事賞（中学生）

川越市立霞ケ関東中2年　竹沢華さん

受賞者のみなさん（優秀賞以上、敬称略）

●絵画部門・小学1～3年生（学年は学年。以下同じ）

【埼玉県生態系保護協会会長賞】大関麻央（久喜1）、清水悠衣（深谷・川本南1）、山本涼乃（新座・東北3）

【知事賞】石田有珠京（所沢・南3）

【朝日新聞社賞】岡安玲（久喜・二田2）、関沢蓮（浦和ルーテル学院3）、増田美乃（日本女子大附属豊明3）、沢田凛（埼玉大教育学部附属4）、安藤美咲（川越・山田5）、瀬戸川和花（開智6）

【優秀賞】永吉明乃佳（上尾・原市南4）、小沢花希（上尾・大谷6）、小嶋凛太郎（川島・出丸6）、沢田莉緒（川越・古谷5）、中島花菜（川越・山田6）

●ポスター部門・中学生

【知事賞】竹沢華（川越・霞ケ関東2）【朝日新聞社賞】小林凛輝（川島1）、山田依澄（ふじみ野・大井東1）、関谷太郎（さいたま・大宮2）【埼玉県生態系保護協会会長賞】谷津葉（ふじみ野・大井東1）、岡部万椋（入間・向陽3）、戸倉駿介（川越・高階西3）【優秀賞】斎藤ひなた（ふじみ野・大井東1）、柴田凪紗（鴻巣1）、飯崎木乃葉（嵐谷・千間台2）、森田美穂（川越・霞ケ関東2）、岡田玲於奈（川越・霞ケ関東3）

●作文部門・小学生

【知事賞】山崎智也（さいたま・本太3）【朝日新聞社賞】羽音佑紀（熊谷・吉岡3）、山本紗映叶（東松山・松山第5）、吉田陽向（春日部5）【埼玉県生態系保護協会会長賞】林優輝（三郷・八木郷1）、櫻井葵衣（狭山・富岡2）、鈴木咲真（さとえ学園4）【優秀賞】小池仁菜（三芳2）、松崎さくら（久喜・三箇2）、小笠原大悟（熊谷・氷川3）、川越美奈（川口・仲町5）、高木桃乃（鴻巣・新堀5）

●作文部門・中学生

【知事賞】山崎美羽（川口・安行2）【朝日新聞社賞】斎藤奈穂（さいたま・指扇1）、阿部伸也（浦和実業学園2）、斎藤はな（さいたま・大宮東2）【埼玉県生態系保護協会会長賞】茂手木彩花（川口・芝東1）、鵜沢奈菜（さいたま・浦和1）、増田琢人（川口・芝東2）【優秀賞】大隈風祐（浦和実業学園1）、井出理太（行田・忍新屋1）、田中愛理（浦和実業学園2）、福島琉真（鴻ケ島・南3）

楽しみな森のカブト虫さがし

さいたま市立本太小3年　山崎智也さん

作文・知事賞（小学生）

ぼくは、毎年、夏になるのが楽しみです。なぜかというと、カブト虫をとりに行くからです。夜に森の中へ、お父さんと入ります。夜の森は真っくらです。耳のそばで、何かがとぶ音がします。だからとてもこわいです。でも、こわいからといってやめることはどうしてもできません。カブト虫を見つけたいからです。

もちものは、かい中電とうと、ぐん手と、虫かご、あみです。ふくそうは、長そで、長ズボン、長ぐつで行きます。なぜ、このかっこうかというと、はちにさされてもいいようにです。本当は、こわいのではちは、いてほしくありません。けれど、はちも大切なやく目をしています。それははちは木をかじってすのもとを作るのです。はちがきずつけた木から、カブト虫のすきなじゅえきが出ます。だからはちも、ひつようなのでしかたがありません。でも、こうやって、いろいろな虫がいて、おたがいたすけあってくらしているんだなあと思います。だからたくさんのほかの虫にあえるので、森へ行くのが、ぼくはとても、楽しみです。

じゅんびが出きたらいよいよさがしはじめます。じゅえきのある木に、かい中電とうをあてて1本1本見ていきます。木に、カブト虫がいると「キューキュー」と音がします。はじめて聞いた時は、何の音だろうと思いました。でも今は、この音がすると、カブト虫がいるぞ、と思いワクワクします。近くにいるとカブト虫のにおいもします。この2つをヒントにしてさがすのです。見つかったしゅんかんは、心の中で「やったあ！」と思います。本当は、声を出したいけれど、カブト虫がにげてしまうかもしれないので、ぐっとがまんします。つかまえられた時は、たからのたまてばこが見つかった気分です。

うんがいい時は、カブト虫がたくさん見つかります。でも、全部は、とってきません。自分でかえる分だけつれて帰ります。全部つれて帰ると、いつか森のカブト虫がいなくなってしまうと思うからです。森には、たくさんの虫がいてほしいです。

こうやってさがしているときぼくは、いつもふしぎに思うことがあります。それは、ぼくには、この真っくらな森で、じゅえきのにおいがしなくて、どこにあるかわからないのに虫たちは、どうして、ちゃんと、じゅえきの場しょがわかるのかなあということです。お父さんに、このことを聞くと、「しょっかくがあるからなか間で教えているのかなあ。」といいました。またまたぼくのふしぎに思うことは、たくさんあります。

今年は3年しいくしたかぶと虫がまごをうんでくれる虫になりました。このカブト虫を森へもどしてあげて、くらい空の森をたくさんとばせてあげたいです。

自然の声に耳をかたむけて

川口市立安行中2年　山崎美羽さん

作文・知事賞（中学生）

私は、コンクリートに囲まれた道路から顔を出した草を見た時とても驚きました。人が自然を減らし生きる場所が無くなっても、自分が置かれた状況の中、必死に生きていく姿が一番強いと思いました。

私は、小さい時に言われたある言葉が忘れられません。その人は思ったことを言ったつもりかもしれませんが私の中では強く残っているのです。「花壇に入ってはいけないよ。そこに生えているお花は、今を必死に生きているんだ。」と。けど、その人はそう言いながら足下の雑草を踏んでいました。その時は特に何とも思いませんでしたが、今思えばとても不思議です。先生にも一度聞いたことがあります。「どうして、花壇の花は踏んではいけないのに雑草はいいんですか。」と。すると先生は、「花壇の花は、人が植えたものだから、同じ命だけれど、見る人を楽しませたりと他とはちょっと違うんだよ。」とおっしゃっていました。同じ命なのに違うって変だなと思いました。

私が今を生きているのは、沢山の命が犠牲となっているのはわかっているつもりです。私の住んでいる家や、この文章を書いている紙筆、書きこまれている紙も、全て私の為に犠牲になった命です。自然は私たちの為に命を犠牲にして新しい物を与えてくれるのに、どうして私たち人間は自然に何も与えていないのだろうと思うことがあります。彼らの世界に勝手に入り込み荒らしていく。切られた木の悲鳴や燃かれた草花の気持ちは分からないけど、分かろうとしないのは罪だと思います。木を切ったなら木を植え、草花を咲いたなら種をまく、今では、自然が減りこれを行っていますが自然のためではなく自分たちの為です。互いに与え、与えられるの関係だったら、また、木が一本育つまでの年月を考え使い方も量を考えることも大切です。自然が無くなって困るのは、私たちです。この世界は、自然で成り立っているのです。だから、もし、近い距離の移動なら車は使わずに、歩き自転車で、もし、使いきれずに余るものがあるなら、量を調節したりして命を無駄にしないで下さい。いつか、この世界に緑が無くなってしまうのは悲しいです。自然は、私たちが生きていく為だけではなく見る人の心も穏やかにしてくれます。今からずっと昔の時代から人と自然は共存していました。それを、次の世代に伝える為にも今の私たちができることはやりましょう。

もし、分からなくなったら外に出て歩いてみて下さい。コンクリートの間から顔を出している草や、雨に打たれた花、風にゆれる木が教えてくれるのかもしれません。人間を中心にまわっている世界でも必死に生きている自然の声に耳をかたむけて下さい。

A16-1661